

令和6年度 豊田市総合教育会議

1 日時 令和6年12月26日（木） 午後3時30分～午後4時

2 開催形式 対面会議

3 参加者（敬称略 順不同）

豊田市長 太田 稔彦

豊田市教育委員会教育長 山本 浩司

豊田市教育委員会教育長職務代理者 佐伯 英恵

豊田市教育委員会委員 天野 勝美

豊田市教育委員会委員 榊原 昌子

豊田市教育委員会委員 吉田 貴子

豊田市教育委員会委員 原 紳也

4 議事録

（１）次期教育大綱について（意見交換）

教育政策課	＜資料に基づき説明＞
榊原委員	1点目、「めざす学びの姿」という表現は、どんな環境づくりをしていくのかがよりわかりやすくなった。2点目、「つながりの中で学び、地域とともに育つ」というのは重要な視点である。先日参加した、こどもの権利条約フォーラムで「一目おく大人とはどんな人か」という問いに対して、「学校の先生と習い事の先生」と子どもが答えた。私だと地域の人を思い浮かべる。今の子どもたちは関わる範囲が狭く、身近な大人が少ないため仕方がないかとも思う。子どもは大人の姿を見て憧れて育っていき、憧れる大人がいる地域が好きになるのではないかな。つながりを通じた学び合いを大切にしていきたい。
天野委員	今までの意見の中で、良い大綱になってきたと思うが、あれもこれも要素が多くなりすぎている。もっと豊田らしさを出しても良い。創造性やイノベーションなどは重要なキーワードなので、もっと大綱の中で位置づけても良いと思う。
佐伯委員	教育委員になり8年となる。過去に2回教育大綱の改正があったが、前はそんなに大きく変えるものではないという意識であった。今回はしっかり議論した。これから大きく豊田市の教育が変わるタイミングだと感じている。第3期大綱には「子ども」という言葉がでてこなか

	ったが、第9次総合計画の審議会では「こども起点」を非常に重視しており、そういった点も反映されていて良いと思う。 SDGsやカーボンニュートラルなどは世界規模の課題ではあるが、実は住んでいる地域と地続きになっている。課題解決に向け実践していくのは住んでいる地域、豊田市民である。そういった視点が重要だと感じている。教育委員として今回の改正に関われたことを嬉しく思う。
山本教育長	最終的には表現は調整していくが、学校と社会とのつながりが大事だと思う。学校の課題は社会の課題、社会の課題は学校の課題で、両者が良い状態でないといけないと感じる。 「自己肯定感」という言葉はよく使われるようになったが、分かりやすく言うと、どういうことかを考えている。「自分のありのままの姿を受け入れる」ということだと思うが、子どもの感覚でいうと、例えば自分に目標があるとか勉強が分かるということなのか。自己肯定感があるということは、子どもがどういう状態なのかということ、自分としてはもっと研究していきたい。
吉田委員	全て実現できたらとても素敵だと思える大綱だと感じる。今のままの自分で良いということ、家族や地域の人に受け入れられていると思える安心感があると、他の人や生き物にも優しくなれる。また、人生100年時代で、生涯にわたって、子どもだけではなく全ての方が学ぶ環境を目指していくということは非常に大切である。
原委員	④「かけがえのない命と心を守る」と⑦「自己肯定感を高め、自他を尊重する」という点が入っており、良いと思う。
太田市長	自己肯定感が高い子といった段階で、大人の価値観が既にそこにあるように思う。どんな状態でも自分らしくいても良いというはずなのに、大人の色眼鏡で見てしまっている。ものさしを持っている人に合わせられるかと、子どもが窮屈な思いをしているのではないかと。どこまでいっても大人のものさしが、子どもの生きづらさに繋がっていると思う。子ども条例は学ぶ権利が子どもにはあるという権利保障の話になる。そことの兼ね合いも考えないといけないと感じる。 「教育大綱」を「学びの大綱」へ変えていくことについては、30年前、生涯学習の職員として、生涯教育から生涯学習へという議論をしていたが、その議論を今していると感じた。「学びの大綱」へ変えていくということは、大人が教え育てる、教員が教え育てる、社会が教え育てるといった「教育」から、「学習」という学ぶ側の立場にたって、社会のしくみを、教育のしくみを変えていくという理解で良いか。学ぶ側の立場になると、評価基準も、ものさしも多様化し、大きく変わってきて

	いる。「学びの大綱」で良いが、かつて生涯学習に職員として携わった者として少し思うところがある。 社会や子どもの考え方、地域社会も変わっていく。この学びの大綱が未来永劫上手くいくとは限らない。変わっていくようなものとして考えていく。
--	---